

特集：彦根あそび博 城下町・彦根を楽しむ

「彦根遊び博」とは、彦根景観フォーラムが昨年から寺子屋力石で開催している談話室「それぞれの彦根物語」で話題となったところを訪ね、それぞれの人の自分だけが知っている「すばらしい彦根」をつなぎ合わせ、みんなで楽しむ「あそび博覧会」に進化させたものです。今回はその一部をご紹介します。

第1回(4/21) 芹川堤の自然と歴史で遊ぼう 雨壺山の自然と歴史で遊ぼう

雨壺山コースでは、長久寺のご住職より、本堂をはじめ、源頼朝公が手植の樹齢800年の紅梅、番町皿伝説のお菊の墓や現存する6枚の白磁の皿等、興味深いお話を拝聴しました。



そのあと新芽が芽吹く雨壺山を歩き、木々や野草、花々に触れ、森林浴とともに新たな発見もありました。たとえば、サクラのフゲンソウ（普賢象）—サクラの古い品種で、葉化した雌しべが普賢菩薩の乗る象の鼻に似ていることから名付けられた—とのこと。



歴史も自然も知らないことはまだまだあります。知っていること、感じることを語り合い、互いに理解していく楽しい時間です。



第2回(4/28) 脇街道・七曲がりて遊ぼう 高宮宿で遊ぼう

3年ぶりに中山道の宿場「高宮」の散策をしました。前回は高宮と鳥居本の2つの宿場を近江鉄道を利用し散策しましたが、この日は、ゆったりと高宮宿を見て回りました。

高宮布問屋の旧布惣さんでは当時、



掲げていた「織本 高宮嶋」という看板などを拝見でき、また旧商家を自治会館として活用されている「仲町会館」を見学しました。この日、ガイドしていただいた地元の方の話術の巧みさ！本当に貴重な時間を過ごしました。



第5回(9/8) 鳥居本宿の道で遊ぼう 脇街道・七曲がりて遊ぼう

「鳥居本宿で遊ぼう」では、近江鉄道に乗り、レトロな気分が鳥居本駅にて下車。



旧鳥集会所（湖東焼自然斎住居跡）で、地元の説明員の方より鳥居本宿の昔話や、現在の話題も取り入れながらお話を聞き、その後「赤玉神教丸」で有名な有川製薬さんを訪ねました。神教丸の暖簾が掛かった歴史を感じさせる立派な店先で、ご主人が出迎えてくださり、350年の歴史をお話いただきました。現在の建物は200年ほど前のもので、お店の隣には明治天皇が北陸、東海道巡幸のおり小休所とされた御門、奥庭があり史跡指定を受けているとのことでした。



本陣跡、道標、歌舞伎でしられる「法界坊和尚」の鐘が残る上品寺、当時軒を並べた「合羽屋」の看板等まだまだ風情が残る町並みです。

鳥居本をあとにし、中山道から彦根道へと進み、佐和山の切り通し近くのトンネルを抜け、彦根城下まで歩きました。「近くでありながら、旅をしたような気分ですね」。参加の方からの感想でした。

第6回(9/15) 天寧寺で遊ぼう 佐和山周辺で遊ぼう

「佐和山周辺で遊ぼう」では、佐和山研究会の田附

さんの案内で、佐和山城の歴史や解明されていない多くの謎を説明していただいた後、今も残る土塁跡や湖東焼窯場跡、石田三成屋敷跡を歩いてめぐりました。



井伊家の信仰が篤かった仙琳寺の大きな山門、清涼寺ではすばらしい庭



と井伊家の歴代の菩提を特別に見せていただき、禅の極意とは「時を点ととらえ、線と考えないこと。今こ

の一瞬を十分に生きること」と教わりました。井伊神社、大洞弁財天長寿院に向かう途中で本物の甲冑を身にまとった戦国武将に遭遇。みんなで周りを取り囲み、さわったり質問したり。



その後、佐和山一夜城プロジェクトの開催されている東山公園へ。戦国甲冑劇団の迫力満点の立ち回り、思わず笑えるせりふやアドリブに、500人近い観衆は大興奮でした。

連載 **創造的修景を考える** —よりよき次代のために— 建築家 戸所 岩雄

第10回 **創造と修景（最終回）**

“創造的修景を考える”と題して10回に亘り小文を記してきました。意とするところを充分伝えることが出来たか、心もとないのですが、私にとってこのタイトルが全てを語っていたように思われます。

創造と修景という二つの矛盾するフレーズを一つの言葉として考える。これはOLD・NEWと同じく大変魅力ある、また力を持った概念であったが、わかりにくい表現であったかもしれません。曖昧さとか矛盾を内に抱きながらも成立する概念。これは『日本的なもの』とは何かを探ることと同じであったように思われます。現代は単に情報の量と多様性が価値を持つ社会というのではなく、その社会の成立の在り方自身を問われることとなりました。

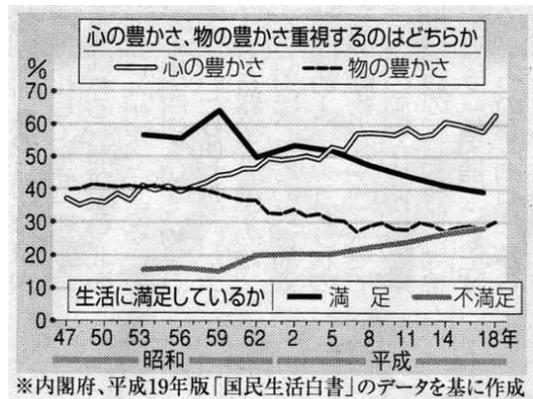
ケータイ都市という言葉が生まれました。多様化する社会を単にエレメントの多様性として捉えるのではない新たな定義が必要となってきました。社会、コ



ミュニティは厳としていつの時代も存在します。時代環境は変わっても“人のこころ”をつなぐツールは何なのか。その問いはいつの時代も有効です。

文化性かルールか情報か。誇りか倫理か宗教か。経済的豊かさを獲得することにより、他律自律を問わ

ず多様な選択を可能とした現代において、自由として解き放たれた人々は幸せになれたのでしょうか。まちは輝きを増したでしょうか。現代人は賢明です。物質的豊かさより、心の豊かさの方が必要であることに、気づいています。（表を参照）



GNH（グロス・ナショナル・ハピネス、国民総幸福量）という概念が生まれました。「経済指標よりも、人どうしのつながりや心の豊かさを大切にする社会」という考えです。

修景やまちづくりの成果を考える時、これらの概念なしには成立しえません。今までなかなか解りにくかった ONE for ALL, ALL for ONEの「想い」が、受け入れられる社会に近づいたのかもしれません。創造的修景に満ちたまちがふえるといいな。 おわり



（お付き合いいただき、ありがとうございました。）